

Estimation of normal covariance matrices parametrized by irreducible symmetric cones

今野 良彦¹ (日本女子大学理学部)

実ウィシャート分布のスケール行列母数の推定問題を Stein 損失のもとで考えたとき、経験共分散行列の固有根を shrinkage-expansion technique で修正することにより、直交不変ミニマックス推定量が得られることが知られている ([1] を参照)。本発表では、対称錐体上の一般化ウィシャート分布に対しても同様の結果が得られることを報告する。

実ベクトル空間 \mathcal{V} は Euclidean Jordan 代数 (EJA と記す) であるとは、 \mathcal{V} 上にジョルダン積 (単位元を e と書く) と呼ばれる双一次形式 $(a, b) \mapsto ab$ ($\mathcal{V} \times \mathcal{V} \rightarrow \mathcal{V}$) があり、それがつぎの性質をもつときをいう: (i) 任意の $a, b \in \mathcal{V}$ に対して、 $ab = ba$ 、(ii) 任意の $a, b \in \mathcal{V}$ に対して、 $a(a^2b) = a^2(ab)$ (ただし、 $aa = a^2$ と書いた)、(iii) 任意の $a, b, c \in \mathcal{V}$ に対して、 $(a|bc) = (ab|c)$ 。ただし、 $(a|b)$ は内積である。以下では、 \mathcal{V} は有限次元で単純 (自明でないイデアルを持たない) とする。 \mathcal{V} は power associative algebra となり、元 $x \in \mathcal{V}$ の最小多項式の次数には最大値がある。これを \mathcal{V} のランクという。以下では、 \mathcal{V} のランクを r 、次元を v 、Peirce invariant を g と書き、 \mathcal{V} の Jordan frame (直交原始的ベキ等元の組) c_1, c_2, \dots, c_r を一つ固定する。

Jordan 代数の意味での trace と determinant を \det と \det と記す。また、通常の trace と determinant を Det と Tr と書くことにする。以下では、内積を $(x|y) = \text{tr}(xy)$ ($x, y \in \mathcal{V}$) とする。各 $x \in \mathcal{V}$ に対して、左変換と 2 次変換を $L(x) : y \mapsto xy$ ($\mathcal{V} \rightarrow \mathcal{V}$) と $P(x) : y \mapsto 2x(xy) - x^2y$ ($\mathcal{V} \rightarrow \mathcal{V}$) で定める。次で定義された EJA の部分空間 \mathcal{V}^+ は対称錐体 (等質で自己双対な開凸体) となる: $\mathcal{V}^+ = \{x \in \mathcal{V} : \text{Det}\{P(x)\} \neq 0\}$ 。

整数 N は $N > v/r$ とし、 $r \geq 2$ 、 $\sigma \in \mathcal{V}^+$ とする。確率変数 w は、母数 N と σ の一般化ウィシャート分布に従うとする:

$$f_{\mathcal{V}^+}(w|N, \sigma) = \frac{2^{-Nr}}{\Gamma_{\mathcal{V}^+}(N)} \det(\sigma)^{-N} \det(w)^{N-v/r} \exp\left\{-\frac{1}{2}(\sigma^{-1}|w)\right\}, \quad w \in \overline{\mathcal{V}^+}.$$

ただし、 $\overline{\mathcal{V}^+}$ は \mathcal{V}^+ の閉包、 $\Gamma_{\mathcal{V}^+}(s) = \frac{(2\pi)^{(v-r)/2} \prod_{j=1}^r \Gamma(s - \frac{g}{2}(j-1))}{\Gamma_{\mathcal{V}^+}(s)}$ で $\Gamma(\cdot)$ はガンマ関数である。この分布を $\mathcal{JW}_{\mathcal{V}^+}(N, \sigma)$ と記す。観測 w に基づいて σ の推定問題を損失関数 $\mathcal{L}(\hat{\sigma}, \sigma) = (\sigma^{-1}|\hat{\sigma}) - \log \det(\hat{\sigma}) + \log \det(\sigma) - r$ のもとで考える。

¹email address: konno@fc.jwu.ac.jp

危険関数を $\mathcal{R}(\hat{\sigma}, \sigma) = \mathbb{E}[\mathcal{L}(\hat{\sigma}, \sigma)]$ とする．ただし， $\hat{\sigma}$ は σ の推定量で，期待値は $\mathcal{W}_{\mathcal{V}^+}(N, \sigma)$ に関してである．

観測 w の乗数倍の推定量の中で最良のものは $(1/(2N))w$ となることがわかる．しかし，これは非許容的である．三角変換群 (Frobenius 変換) 不変で最良なものを構成することにより，このことは確認ができる．さらに，三角変換群不変で最良な推定量は定数リスクをもち，ミニマックスであることがわかる．

三角変換群不変で最良な推定量を改良することを次に考える． \mathcal{V}^+ の自己同型群の単位元連結成分を \mathcal{G} ， \mathcal{V} の直交群を \mathcal{O} ， $\mathcal{H} = \mathcal{G} \cap \mathcal{O}$ とする．推定量の族

$$\hat{\sigma}_\varphi = k \sum_{j=1}^r \varphi_j(\mathbf{a}) c_j \quad (1)$$

を考える．ただし， $w = ka$ ， $k \in \mathcal{H}$ ， $a = \sum_{j=1}^r a_j c_j$ ， $a \in \{a = \sum_{j=1}^r a_j c_j : a_1 > a_2 > \dots > a_r > 0\}$ ， $\mathbf{a} = (a_1, \dots, a_r)$ で， $\varphi_j(\mathbf{a})$ ($j = 1, 2, \dots, r$) は偏微分可能な実数値関数である．以後は， $\varphi_j(\mathbf{a})$ を φ_j と書く．推定量 $\hat{\sigma}_\varphi$ を評価するために次が有効である．

補題 w は $\mathcal{W}_{\mathcal{V}^+}(N, \sigma)$ に従うとき，次式が成立する：

$$\mathbb{E}[(\sigma^{-1} | \hat{\sigma}_\varphi)] = \mathbb{E} \left[\sum_{j=1}^r \left\{ 2 \frac{\partial \varphi}{\partial a_j} + \left(2N - \frac{2v}{r} \right) \frac{\varphi_j}{a_j} + 2g \sum_{i=1}^{j-1} \frac{\varphi_i - \varphi_j}{a_i - a_j} \right\} \right].$$

注意 n を標本数 (中心化された実または複素 r 変数正規分布からの標本) とする． $N = n/2$ ， $g = 1$ ， $v = r(r+1)/2$ とすれば，実ウィシャート分布に対する等式となり， $N = n$ ， $g = 2$ ， $v = r^2$ とすれば，複素ウィシャート分布に対する等式となる．

定理 推定量の族 (1) において， $\varphi_j = \{2N + g(r - 2j + 1)\}^{-1}$ ($j = 1, 2, \dots, r$) とした推定量を $\hat{\sigma}_m$ とする．このとき，次式が成立する：

$$\mathcal{R}(\hat{\sigma}_m, \sigma) \leq - \sum_{j=1}^r \log(2N + g(r - 2j + 1)) - \sum_{j=1}^r \mathbb{E}[\log u_j^2].$$

ただし， u_j^2 は自由度 $2N - g(j - 1)$ のカイ自乗確率変数である．さらに，右辺はミニマックスリスクである．

参考文献

- [1] D.K. Dey, C. Srinivasan, Estimation of a covariance matrix under Stein's loss, *Ann. Statist.* **13** (1985) 1581-1591.
- [2] J. Faraut, K. Korányi, *Analysis on Symmetric Cones*, Oxford Science Publications (1994).
- [3] Y. Konno, Estimation of normal covariance matrices parametrized by irreducible symmetric cones under Stein's loss, submitted (2005).